

CDM 理事会第 26 回会合

2006 年 9 月 26 日－29 日 ドイツ・ボン

検討事項 (“Proposed Agenda and Annotations” 要約)

(原文は[こちら](#))

2006 年 10 月 4 日

文責 信岡洋子

CDM理事会検討事項の概要

- ① CDM-AP(信任パネル)関連では、個別の運営機関に関する理事会への提案はなし。
- ② 方法論の検討については、Meth パネルからの提案が検討されることになっており、その中には 6 件の新方法論の承認(A 判定)が含まれる。モンゴルの ESCO 事業の方法論案を含め、B 判定の方法論案は 7 件あった。
- ③ CCS 方法論案 (NM0167、NM0168、小規模 SSC038) の論点について Meth パネルがまとめた COP/MOP への提案レポートを検討する。同提案によると、政策・法的側面と技術・方法論的側面を検討する 2 つのトラックからなるプロセスを COP/MOP で設立するよう提案。
- ④ プログラム CDM をめぐる定義についても Meth パネル案をもとに議論する。
- ⑤ 吸収源 CDM においては、A/R WG から承認を提案された方法論案が 1 件。
- ⑥ 小規模 CDM 関連では、小規模 CDM ワーキンググループの提案をもとに、小規模 CDM 方法論の改訂のほか、COP/MOP1 から要請された小規模 CDM 定義の見直し案を検討する。ワーキンググループ案では、タイプ II(省エネ)とタイプ III (その他) の上限値が大幅に上がることとなっている。
- ⑦ CDM プロジェクト登録、CER 発行については、レビュー申請が提起されたプロジェクトを検討しレビューを実施するか検討するとともに、レビュー済みのものはその結果をもとに対処を決める。

1. 運営機関の信任

2006 年 9 月 4－6 日に CDM-AP(信任パネル)が開催されたが、今回は個別の運営機関に関する CDM 理事会への提案はなし。

そのほか、DOE の実績を考慮し、再信任評価のスコープを決めるプロセスや運営機関の信任手続きの改訂を検討する。

2. ベースライン及びモニタリングの方法論

Methパネル第22回会合がドイツ・ボンで2006年9月4日から9日に行われた

(<http://cdm.unfccc.int/Panels/meth> 参照)。CDM理事会ではMethパネルからの提案内容を検討する。

2-1. 新方法論提出状況

現在CDM理事会とMethパネルによる検討が進んでいる方法論については以下のホームページを参照 (<http://cdm.unfccc.int/methodologies/PAmethodologies/publicview.html>)。

(1) CDM理事会に承認を提案する方法論案 (A判定)

NM0135 ナイジェリアの高圧送配電システムにおけるSF6排出削減

NM0140-rev 南アフリカにおけるバイオマス発電

NM0145 赤道ギニア共和国におけるメタノール製造のための随伴ガスフレアリング回避とその有効利用

NM0146 南アフリカのケイ素マンガン合金工場における省エネ

NM0147 マレーシアのパーム油工場でのたい肥化によるメタン排出削減

NM0163 メキシコのセメント工場のクリンカ製造における焼成灰と蛍石の利用

(2) 差し戻し提案する方法論案 (B判定)

NM0121 シェラレオネ水力発電

NM0144 モンゴルのESCO事業

NM0155 精製所における廃ガス有効利用

NM0159 ガーナにおけるエアコンの効率性テスト、ラベリング、品質保証プログラム

NM0160 シェルのコジェネプロジェクト

NM0165 ナフサから天然ガスへの原料転換

NM0166 熱利用のための生体分解性廃棄物のバイオメタノール生成

(3) 不承認提案する方法論案 (C判定)

NM0108-rev インドにおけるバイオディーゼル製造と運輸部門でのディーゼルからバイオディーゼルの燃料転換

NM0129-rev タイのヒマワリメチルエステルバイオディーゼルプロジェクト

NM0134-rev バガスボイラー

NM0138-rev 製紙工場の天然ガスコジェネ

NM0162 インドのアルミニウム工場におけるGHGs排出削減

NM0169 精製テレフタル酸製造における省エネ

NM0173 インドの発電所におけるナフサから天然ガスの燃料転換

NM0175 農業用地での硝酸化成抑制剤使用によるGHG排出削減

NM0177 コークス炉ガスによるコージェネ

NM0182 アゼルバイジャンにおける先進制御システムと関連エネルギー管理プロトコルによる発電システムにおける省エネ

NM0183 製油所における溶媒脱圧プロセスとしての石油残滓の超臨界抽出技術によるGHG排出回避

(4) Meth パネルからプロジェクト参加者に改善を求める予備提案 (Preliminary recommendation) が提案された新方法論

NM0110-rev、**NM0142-rev**、**NM0152-rev**、**NM0170**、**NM0172**、**NM0174**、**NM0176**、**NM0178**、**NM0179**、**NM0180**、**NM0181**

(5) Meth パネルで検討が終わらず次回に決定が持ち越された方法論案

NM0133-rev、**NM0141-rev**、**NM0151**、**NM0158**、**NM0161**

2-2. 承認済み方法論の改訂

プロジェクト参加者やDOEからの問い合わせを受けインプットを受けて、Methパネルは**AM0028**、**AM0025**、**AM0027**、**AM0006**、**AM0016**の指摘部分を見直した。CDM理事会はこの見直し提案を検討する。(AM0006、AM0016の糞尿メタン方法論については統合方法論案を検討。Methパネル第22回会合レポート[Annex 10](#)参照)

2-3. 二酸化炭素回収・貯留 (CCS) 方法論について

MethパネルはCCSのこれまでに提出された3つの方法論の定性的評価を行い、COP/MOPへの勧告案をCDM理事会に提出した。Methパネル第22回会合レポート[Annex 12](#)参照)

NM0167 (ベトナムのホワイトタイガー油田でのCCSプロジェクト (EOR))

NM0168 (マレーシアのLNG随伴CO₂の帯水層への地中貯留)

SSC038 (小規模海洋アルカリ化による海洋貯留)

Meth パネルの提案概要：

上記3つの方法論案では方法論的課題、アカウンティング面での問題に疑問が残る。また、COP/MOPまたはCCSに関する技術的な指針を与えうる組織からの指針がなくては解決できない問題も見受けられる。したがって、COP/MOPが政策・法的側面(漏洩リスクや不確実性の受容可能なレベル、プロジェクト境界など)に取り組む第1トラックと、技術的・方法論的側面(サイト選定基準、適合性の条件、モニタリングの指針など)に取り組む専門家グループからなる第2トラックという2トラックのプロセスを設置し、CDM

としての CCS における課題を検討することを提案。

さらに、SSC038 のような、実証されていない技術を CDM の方法論として検討されてもよいのか COP/MOP で検討するよう提案。

2-4. プログラム CDM

前回の CDM 理事会での要請にこたえて Meth パネルが作成した「バンドル」、「プログラム」、「政策」の定義オプション (Meth パネル第 22 回会合 [Annex13](#) 参照) を検討する。

2-5. ダブルカウンティング

混合バイオ燃料関連の CDM プロジェクトにおけるダブルカウンティングについて Meth パネルが作成した指針案 (Meth パネル第 22 回会合 [Annex 11](#) 参照) を検討する。

- (i) バイオ燃料製造のためのバイオマス生産に伴う排出は、混合バイオ燃料プロジェクトからの排出削減量を算出するときと一緒に計算する。しかし、当該プロジェクトが、UNFCCC に登録された吸収源 CDM プロジェクトで発生するバイオマスを利用する場合は、このバイオマス生産にかかる排出量は算出しなくてもよい。
- (ii) バイオ燃料の製造者は、製造したバイオ燃料が非附属書 I 国で燃料として消費されたと証明できれば CER を申請できる。バイオ燃料の消費者の CER 申請は、その製造者が CER の入手を主張しない場合のみ、行ってもよい。
- (iii) 附属書 I 国に輸出されたバイオ燃料分は CER を求めることはできない。

次回の Meth パネルは 10 月 9-10 日開催予定。

3. 吸収源 CDM 関連事項 (afforestation and reforestation project activities)

植林・再植林(吸収源)ワーキンググループ (A/R WG) の第 10 回会合が 2006 年 8 月 29-30 日に開かれた。A/R WG 第 10 回会合レポートは [こちら](#)。

3-1. 新方法論提出状況

- (1) 承認提案の吸収源方法論案 (A 判定)

ARNM0019 ホンジュラスの国立公園における再植林

- (2) 差し戻し提案の方法論案 (B 判定)

ARNM0015 ブラジルの産業用途としての再植林

ARNM0020 中国北部における砂漠化防止のための新規植林

ARNM0021 現在牧草地・農耕地の再植林

ARNM0024 牧畜・農耕により荒廃した土地での再植林

(3) 不承認提案の吸収源 CDM 方法論案 (C 判定)

ARNM012-rev 管理されていない草地での新規植林・再植林

ARNM027 ウルグアイの放牧草地での新規植林プランテーション

3-2. 承認済み吸収源方法論の改訂

ARAM0003 と、小規模吸収源方法論の ARAMS0001 の A/R WG 改訂案を検討する。

3-3. 一般的指針

吸収源プロジェクトの土地の適合性立証手続き、PDD、PDD ガイドライン等の改訂案を検討する。

今後の A/R WG 会合開催予定：2006 年 12 月 5-6 日。吸収源方法論案提出の第 12 ラウンド締め切りは 12 月 18 日。

4. 小規模 CDM 関連事項

SSC-WG(小規模CDMワーキンググループ)の第7回会合が2006年8月31、9月1日に開催された。[SSC-WG第7回会合レポート参照](#)。

4-1. 新カテゴリー「III.J.工業プロセスで使用する CO₂ を得るための化石燃料燃焼の回避」の提案 ([Proposed agenda and annotations Annex 1 参照](#))

前回の CDM 理事会での検討の結果、ベースラインで CO₂ が工業プロセスの原材料として使われている場合も適用できるように改訂するよう差し戻しされていた。また、AM0027 と整合性がとれているか確認することも求められていた。今回改訂された案が議論される。

4-2. 方法論の改訂

AMS I.D. ([SSC-WG第7回会合レポートAnnex 1 参照](#))

4-3. 小規模 CDM 定義の見直し

SSC-WGの小規模CDM定義の見直し案を検討([SSC-WG第7回会合レポートAnnex 2 参照](#))。

(a) オプション1：年間 60,000 トン CO₂-eq 以下の排出削減をもたらすプロジェクトとする。これは登録申請もしくは登録済みのタイプ I プロジェクトの最大の排出削減量を参考とした。

- (b) オプション2 : (i)最大出力15メガワットまでの再生可能エネルギープロジェクト
- (ii)年間40GWh相当分までの供給側もしくは需要側の省エネプロジェクト
- (iii)年間50,000トンCO₂-eq以下の排出削減をもたらすその他のプロジェクト

4-4. 非再生可能バイオマスから再生可能バイオマスへの転換プロジェクトにおける排出削減量算定方法の代替案について

SSC-WGとCDM理事会では以前から非再生可能バイオマス関連の新カテゴリー創設を検討していたが、前回のCDM理事会で結論にいたらなかった。SSC-WGはCDM理事会あるいはCOP/MOPが関連指針を出すまでこの件の検討は行わないこととする。

次回のSSC WGは2006年12月5-6日

5. CDMプロジェクトの登録

登録のためにこれまで提出されたプロジェクトに関する情報は[こちら](#)。

2006年10月4日現在、登録プロジェクト数は334件。

5-1. 登録申請にレビューリクエストが提出されたプロジェクト

CDM理事会では、今会合前にレビューリクエストが申請された9のプロジェクト(<http://cdm.unfccc.int/Projects/review.html>の「EB26」の9件)を検討し、レビューを実施するかそれともレビューなしで登録を承認するか決める。レビューを実施するのであればレビューの範囲を話し合うとともに、レビューチームを結成する。

対象プロジェクト：ブラジルバイオマス発電2件(レファレンス番号：114、401)、インド風力発電(447)、アルゼンチンコンバインドサイクル発電(443)、南アフリカのバイオガス(446)、インドの高炉ガス発電(427)、ブラジル高炉ガス発電(410)、ブラジルエネルギー転換(474)、インド蒸留所のメタン回収・発電(505)

5-2. レビューチームのレビュー結果

前回のCDM理事会でレビュー実施が決定した7件のプロジェクトにつき、レビューチームの結果を検討する。http://cdm.unfccc.int/Projects/under_review.html

対象プロジェクト：インドのセメント工場プロジェクト(レファレンス番号：304)、インド風力発電(315)、マレーシアLFG回収・エネルギー利用(323)、南アフリカビール工場エネルギー転換(358)、インドバイオマス発電2件(372・396)、インド水力発電(400)、

6. CERの発行・CDM登録簿

CERの発行状況は[こちら](#)。

2006年10月4日現在、15,609,909 CERs が発行された。

6-1. CER 発行レビュー申請があったプロジェクト

5件に提起されたレビュー申請を検討し、レビューを実施するか、申請された CER を発行するか決定する。

対象プロジェクト：メキシコ糞尿メタン 2 件(レファレンス番号：150、163)、インドバイオマス発電(075)、スリランカ水力発電(085)、ニカラグア地熱(198)

6-2. レビューチームのレビュー結果

前回の CDM 理事会でレビュー実施が決定した 3 件の CER 発行申請につき、レビューチームの結果を検討する。

対象プロジェクト：インドセメント工場のクリンカ最適利用(レファレンス番号：183)、ブラジル埋立地メタン(164)、インドバイオマス発電 (341)

7. その他

2006年11月の COP/MOP での CDM 関連議題（新設の HCFC22 製造施設での HFC23 破壊プロジェクトの扱いや ITL）の進捗や、資金面等 CDM の運営計画、関係主体（DNA、DOE、政府間機関、NGO など）との意見交換の計画・結果、COP/MOP に提出する CDM 理事会年次報告書などに関して話し合われる予定。

以上